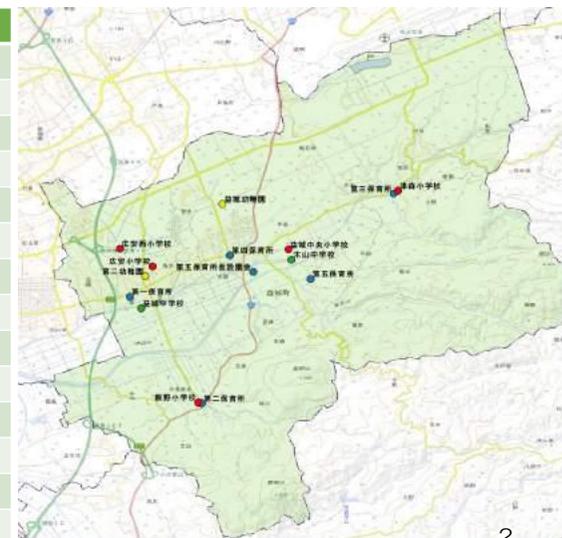


益城町幼保小中学校 ヒアリング調査結果

<調査者>
 熊本大学
 益城町教育委員会
 益城町危機管理課

調査概要

調査日	施設名
H30.5.28	第二保育所
H30.5.29	益城幼稚園
H30.6.6	第一保育所
H30.6.11	第四保育所
H30.6.11	木山中学校
H30.6.27	第三保育所
H30.7.12	津森小学校
H30.7.23	益城中学校
H30.7.23	第五保育所
H30.7.24	広安小学校
H30.7.25	第二保育所
H30.7.30	益城中央小学校
H30.7.31	広安西小学校
H30.7.31	飯野小学校



第一保育所

<基本情報>

- 児童数：81名
- 職員数：16名(全員女性)



震災時の時系列

月日	行動
4/14	職員は不在
4/15	園内の片付け 安心メールで休所のお知らせ (18日より再開予定)
4/16	安心メールで休所のお知らせ (一週間休所)
4/18~ 一週間	広安小で避難所運営業務 (業務の合間に安否確認)
4/25~	園の再開に向けた業務開始 第二保育所に間借りを打診し 了承を受ける
5/11	第二保育所で午前中保育開始 (弁当持参)
5/15	一日保育開始
5/23	簡易給食開始
5/26	第一保育所での保育開始
6/1	給食再開

第一保育所

<安心メールの活用状況>

- 休所の連絡に活用

<周辺地域・学校とのつながり>

- 地域とのコミュニティはあまりない
- 小学校とは年長さんについての連絡を取り合うくらい

<震災当時の課題>

- 男性職員がいないため、片づけで重いものを運ぶのが一苦労だった

<園としての取組>

- 国から支給された防災ずきんなどの使用
- 毎月防災訓練を実施(地震, 火災, 不審者)
- 水とビスコの備蓄. 一晩持つほど

<その後・現在の課題>

- 保育士不足のため, 日中の防災研修に行けない
- 職員の参集基準, 保護者への引渡し基準が決まっていない
- 地域とコミュニティの連携があまりない

第二保育所

<基本情報>

- ・ 児童数：73名
- ・ 職員数：20名(男性保育士1名)



震災時の時系列

月日	行動
4/14	・ 職員は不在 ・ 避難者は隣接する飯野小に向かったため避難者はなし
4/15	・ 午前中に休園の貼り紙を出した
4/16	・ 前震同様、避難者は飯野小へ
4/17	・ 職員が出動し安否確認。その日のうちに完了
4/18～一週間	・ 飯野小にて避難所運営業務
4/25	・ 園再開に向けた業務開始
5/6	・ 半日のみの保育開始

5

第二保育所

<安心メールの活用状況>

- ・ 休所の連絡に活用。PCが使えなかったため携帯電話で利用

<周辺地域・学校とのつながり>

- ・ 老人ホームデイサービスとの交流
- ・ 隣接する飯野小とは日頃から行事等で交流

<震災当時の課題>

- ・ 重いものの多い給食室の片づけで苦労した
- ・ 職員や子どものメンタルケアを考える余裕が無かった

<園としての取組>

- ・ 棚等の固定
- ・ 地震訓練の頻度を増やした(3ヶ月に1回を毎月)
- ・ 水難対策訓練を6,7月に実施
- ・ 非常食(ビスコカリッツ)と水を園児に持たせてもらっている

<その後・現在の課題>

- ・ 引渡しカードはあるが、保護者がなかなか提出してくれない

6

第三保育所

<基本情報>

- ・ 児童数：65名
- ・ 職員数：19名



震災時の時系列

月日	行動
4/14	・ 職員は不在
4/15	・ 園舎の大きな損傷無し。中はものが散乱 ・ 園内の片付け ・ 安心メールで休園のお知らせ
4/16	・ 園舎・園庭に多少の亀裂 ・ 電話で一軒ずつ安否確認。その日のうちに完了
4/18～一週間	・ エミナーズで避難所運営業務
4/25～	・ 園の再開に向けた業務開始
5/6	・ 園を再開。午前中のみ保育
5/9	・ 8:00-18:00保育。弁当持参
5/11	・ 通常時間での保育開始。弁当持参
5/18	・ 給食再開

7

第三保育所

<安心メールの活用状況>

- ・ 休所の連絡に活用。安心メールが携帯電話でできることをこのときに知った(第四保育所の人に教えてもらった)

<周辺地域・学校等のつながり>

- ・ 校区の七夕祭りで交流がある
- ・ 公民館を借りる際に区長さんとも月1回くらいの頻度で会う
- ・ 隣接する津森小学校とも交流がある

<震災当時の課題>

- ・ 棚等の固定。日中の発災だったら園児がけがをしていた
- ・ 男手がないため、片付けの際重いものの移動で苦労した

<園としての取組>

- ・ 水とビスケットなどの備蓄
- ・ 火災、防犯、地震訓練の実施(毎月いずれか)。台風、水難訓練は年2回程度
- ・ 避難場所を決めている

<その後・現在の課題>

- ・ 園の周りに遮るものがないため、台風時にガラスが割れないか心配
- ・ 川に囲まれているため、大雨災害が不安
- ・ 女性だけの職場のため、防犯も不安

8

第四保育所

<基本情報>

- 児童数：92名
- 職員数：25名(男性保育士1名)



震災時の時系列

月日	行動
4/14	<ul style="list-style-type: none"> 職員は不在 避難者の要望で園庭を開放
4/15	<ul style="list-style-type: none"> 園内の片付け 避難者は80-90名ほど 職員1名が滞り避難所開設(避難所は4/25くらいまで)
4/16	<ul style="list-style-type: none"> 水が出ないため給食もトイレも不可 食器の消毒機器が破損
4/18～一週間	<ul style="list-style-type: none"> 総合体育館で避難所運営業務(業務の合間に安否確認)
4/25～	<ul style="list-style-type: none"> 園の再開に向けた業務開始
5/6,7	<ul style="list-style-type: none"> 午前中保育開始
5/9,10	<ul style="list-style-type: none"> 8:00-18:00保育開始。弁当持参
5/12	<ul style="list-style-type: none"> 通常時間での保育開始。弁当持参
5/16	<ul style="list-style-type: none"> 給食再開

9

第四保育所

<安心メールの活用状況>

- 休所・再開の連絡に活用

<周辺地域・学校とのつながり>

- 益城中央小学校との連絡会による情報交換、運動会への参加等
- 老人会との交流(サロン)が年に3回程度
- 避難所を経て、地域の人と顔見知りになった

<震災当時の課題>

- 家庭訪問に行っていなかったため、家庭の事情が分からなかった
- 避難所開設後、毛布などあったものがなくなるケースがあった

<園としての取組>

- 地震訓練を毎月実施
- 火災、水難訓練も実施している
- 備蓄は検討中
- 各部屋の大きな棚は固定している

<その後・現在の課題>

- 保育士不足が大きな問題。人がいないと何もできない
- 男手不足も問題

10

第五保育所

<基本情報>

- 児童数：65名
- 職員数：20名(全員女性)



震災時の時系列

月日	行動
4/14	<ul style="list-style-type: none"> 職員は不在
4/15	<ul style="list-style-type: none"> 園舎が傾いており、事務所に入れない状態に 危険のない範囲で片付け 子ども未来課に連絡し、他の保育所のステージを借りて最低限の荷物を置かせてもらうことに 職員の携帯電話で安否確認。ほとんどその日のうちに完了
4/16	<ul style="list-style-type: none"> 園舎はさらに被害を受ける
4/18～一週間	<ul style="list-style-type: none"> 益城中央小で避難所運営業務
4/25～	<ul style="list-style-type: none"> 園の再開に向けた業務開始 中央小の教室を間借りすることに
園再開	<ul style="list-style-type: none"> 園再開日は午前中保育のみ 翌日、翌々日は弁当持参 再開4日目から簡易給食
9/1	<ul style="list-style-type: none"> 仮設園舎での保育開始

11

第五保育所

<安心メールの活用状況>

<周辺地域・学校とのつながり>

- 被災した旧園舎のときは、益城中央小の運動会に行っていた

<震災当時の課題>

- 被災した旧園舎からのものの運搬が一番大変だった
- 最低限のものしか取り出せなかったため、園再開後はものが何もなかった

<園としての取組>

- 各クラスの非常袋に引渡しカードを入れている
- ビスケット、水を1日分備えている

<その後・現在の課題>

- 大風でガラスが割れないかが心配
- 今やっていることが正しいのか聞ける人がおらず、自分たちの経験に基づいたことをしている

12

益城幼稚園

<基本情報>

- ・ 児童数：143名
- ・ 職員数：21名



震災時の時系列

月日	行動
4/14	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員は不在 ・ 避難者が来たためともに役場まで行き、避難所の支援(仮設トイレの設置、避難者のお世話など)
4/15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 棚はことごとく倒れていた ・ 携帯電話で安否確認。午前中には完了。その際に休園について伝える ・ 避難者に部屋を1つだけ開放 ・ 車中泊込みで30人ほど避難 ・ 場所の提供のみ。運営はしなかった
4/16	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園舎は大きな損傷無し ・ 55名が避難 ・ 前震時同様、基本場所の提供のみ
4/18～一週間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員2人がミナテラスの応援に行った
5/10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園再開

13

益城幼稚園

<安心メールの活用状況>

- ・ 安否確認には利用しなかった。頭になかった。その後の情報発信等には活用

<周辺地域・学校とのつながり>

- ・ 隣に役場仮庁舎があるため、備蓄など当てにしている
- ・ 周辺に何もないため、地域とのつながりは少ない

<震災当時の課題>

- ・ 幼稚園のため、寝具がなかった
- ・ プールに水を貯めてトイレ用水に使うなど、水の確保に苦慮した

<園としての取組>

- ・ 着替え、水分、お菓子を園児に持たせるよう保護者に協力してもらっている
- ・ 地震と火災の訓練を交互に実施
- ・ 年に数回ある県や郡の講習会への参加

<その後・現在の課題>

- ・ 道路状況が刻々と変化する中で、スクールバスの運行・道順で苦慮した
- ・ 引渡しについて着手できていない
- ・ 避難所の夜の見回りなど、女性職員のみで安全面の不安

14

第二幼稚園

<基本情報>

- ・ 児童数：110名
- ・ 職員数：17名



震災時の時系列

月日	行動
4/14	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員は不在
4/15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心メールで休園のお知らせ ・ 携帯電話で安否確認。午前中に完了
4/16	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園庭が自衛隊の基地になっていた
4/17	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員室・保健室の片付けと被害状況の確認(水道は園再開直前まで来ず)
4/18～一週間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広安西小で避難所運営業務 ・ 安否確認は水曜日(20日)頃にした
4/25～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園の再開に向けた業務開始
4/26	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども未来課の拠点として使用されることに ・ 第一保育所が間借りすることが決定
4/29	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所・幼稚園の災害対策本部として保健室を開放 ・ 安心メールで園再開予定のお知らせ
5/2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一保育所職員と話し合い
5/10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園再開。午前中のみ
5/16	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通常保育開始

15

第二幼稚園

<安心メールの活用状況>

- ・ 休園・園再開予定の連絡で活用

<周辺地域・学校とのつながり>

<震災当時の課題>

- ・ 避難所生活で精神的にきついという保護者の声を聞いた

<園としての取組>

- ・ 着替えやゼリーなどを持たせてもらっている。1晩分くらい
- ・ 引渡しカードを毎年提出してもらっている

<その後・現在の課題>

- ・ 地域とどうコミュニケーションをとったらよいかわからない
- ・ 引渡しの基準はない
- ・ 備蓄は必要だと思うが、どこに置いたらよいかわからない

16

益城中央小学校

<基本情報>

- ・ 児童数：456名
- ・ 職員数：28名



震災時の時系列

月日	行動
4/14	・ 指定避難所ではなかったが、避難所にするよう指示があった(避難者はなし) ・ 職員室内の散乱、ガラス戸が外れる、地面・校舎壁の亀裂などの被害
4/15	・ 教職員は自宅優先 ・ 学校のことに集中できる環境
4/16	・ 避難所になった ・ 日中7名ほど出勤。窓ガラスなど、防犯関係のみ修復
4/18	・ 全員出勤。安否確認実施
学校再開まで	・ 避難所の運営は、当初は役場職員中心に、その後は自主運営に切り替わった。学校職員は、学校再開に向けて集中することができた
5/9	・ 学校再開
再開～一週間	・ 給食がないため半日登校
二週目～	・ 簡易給食。全日登校 17

益城中央小学校

<周辺地域・学校とのつながり>

- ・ コミュニティ・スクール

<震災当時の課題>

- ・ マスコミが一挙に来た。慣れていないため対応に困った
- ・ 安否確認で避難所を廻った際、1年生の顔が分からなくて困った
- ・ 運動会で頑張りすぎて、終わった後不安定になる児童がいた
- ・ 支援者が多すぎてお礼状を書けず、感謝の気持ちについて教えられなかった

<学校としての取組>

- ・ まず先生たちの家の状況を聞いた。子どもたちのケアをする先生が肝要
- ・ 「心のケア週間」(5/9～5/13)を実施。校長講話、集団遊び、ボランティアとのふれあいなど。保護者向けに「スクールカウンセラーたより」を発行。子どもたちの心のケアに役立つ情報を提供
- ・ 避難訓練の見直し

<その後・現在の課題>

- ・ 地域と合同の防災訓練をしていかなければならない
- ・ 地域住民と学校が助け合える人間関係を作っておくこと
- ・ まだまだ児童の心のケアが必要
- ・ 支援団体に関して、どの団体が良くてどの団体が悪かったのか話し合いをするべきではないか

広安小学校

<基本情報>

- ・ 児童数：701名
- ・ 職員数：40名



震災時の時系列

月日	行動
4/14	・ 管理職2人も不在(郡の教頭会等で) ・ 翌日の授業参観の準備で10名ほどの職員がいた ・ 体育館を開放(余震のため避難者は入らなかった) ・ グラウンドを開放。車中泊多数
4/15	・ 避難所対応と学校再開に向けた片付け(学校主体の運営) ・ 役場職員が到着 ・ 教室を開放。1階から埋まっていた
4/16	・ 停電 ・ 学校だけでは対処しきれない状態に
4/17	・ 兵庫県から「震災・学校支援チーム(EARTH)」が支援入り
4/18	・ 避難所リーダー会の設置。これ以降、学校再開準備に着手
4/21	・ 児童の安否確認完了
4/23-30	・ 電気が復旧、ソーラーパネル、仮設トイレ設置
5/8	・ 避難者が教室から体育館へ移動 ・ 水道が復旧
5/9	・ 学校再開
8/18	・ 避難所閉鎖 19

広安小学校

<安心メールの活用状況>

- ・ 安否確認に用いようとしたが、情報が一方向で、やり取りができなかった

<震災当時の課題>

- ・ 停電していたが電話は通じたため、遠方から「親戚が避難していないか」などの問い合わせが多く、とても大変だった
- ・ 入学間もない1年生の安否確認が大変だった
- ・ 「AMD」など、どんな支援をしてくれるのか分からなかった。EARTHを含め、有益団体の存在を事前に知っておきたかった。支援の受け入れ基準が必要だった

<学校としての取組>

- ・ 学校再開日(5/9)は、集団登下校を教員が引率した
- ・ 大きな地震が心配だったため、再開後避難訓練を行った
- ・ 避難所と共存する形となったため、子どもに「生活の場」と「教育の場」があると伝えた

<その後・現在の課題>

- ・ 教職員の研修が必要
- ・ 引渡しの訓練、マニュアルがない
- ・ 地震後に来た教職員に地震に伝える機会はない

広安西小学校

<基本情報>

- ・ 児童数：741名
- ・ 職員数：45名



震災時の時系列

月日	行動
4/14	・ 学校に残っていた教務主任と主幹等10名で対応
4/15	・ 校長・教頭出勤 ・ 避難者が数名おり、管理職の寝泊まり決定
4/16 ～17	・ 職員20名ほどが出勤 ・ 避難者30～80名。その後約800名が押し寄せる ・ 1階教室を開放 ・ 18日までの臨時休校決定 ・ 安心メールで安否確認(登録状況は300/580) ・ 来られる職員だけで、3交代制で対応 ・ 16日夜に食料が不足。17日に自衛隊が来て解消 ・ 要介護避難者の聞き取り(25日まで)
4/18 ～24 頃	・ ほとんどの職員が出勤。各自仕事を見つけて動く。学校再開よりも、避難所を優先して動いている職員が多かった ・ 20日：子どもたちのボランティア募集。21日から活動開始
4/25 頃～	・ 3交代制をやめ、学校再開に向けて本格始動。ただ、支援物資が継続してくるため、避難所にも関わらざるを得ない状況
5/9	・ 学校再開
8/18	・ 避難所閉鎖

21

広安西小学校

<安心メールの活用状況>

- ・ 安否確認で活用

<震災当時の課題>

- ・ 役場職員と度々避難所運営の考え方に隔たりがあった
- ・ 入学直後で、子どもや保護者の顔が分からない状態だった

<学校としての取組>

- ・ 家庭の事情でしばらく出勤できなかった先生へのケアをした(遅れてしまったことへの申し訳なさなどを抱えていた)
- ・ 養護教諭を中心に心のケアの研修
- ・ 入学直後で、子どもや保護者の顔が分からない状態だった
- ・ 民間の塾や熊大生などに来てもらって、学校で塾を開講したりした
- ・ 地震後に異動してきた先生には、研修や、当時の報道資料を配布するなどしている

<その後・現在の課題>

- ・ 当時もいた教員は1/3しかいない。経験をどのように語り継ぐか
- ・ 現在、カウンセリング件数が下げ止まっている
- ・ けんかなどの事象が地震と関わっているのか注意深く見ていかないといけない
- ・ 引渡し訓練。学校の規模が大きいので、どのように実施していくか考えている

22

飯野小学校

<基本情報>

- ・ 児童数：142名
- ・ 職員数：13名



震災時の時系列

月日	行動
4/14	・ 職員が4～5人ほど集まる
4/15	・ 駐車場に車中泊の車が200台弱ほど ・ 飯野小で校長会 ・ 安否確認。その日のうちに完了(1年生の安心メールへの登録が済んでいなかったため、登録のお願いも同時にして連絡体制を整えた)
4/16	・ 土曜は校長・教頭が交代で勤務。他の先生は平日のみ出勤 ・ 学校主体での避難所運営(最初の2,3日のみ)。その後は役場職員、自主的なボランティアに引き継ぎ
4/18	・ 学校再開の準備開始
4/21	・ 飯野青空教室開始
5/19	・ 避難所閉鎖

23

飯野小学校

<周辺地域・学校とのつながり>

- ・ 仮設住宅の住民と交流あり
- ・ 以前からそろばん、花クラブなど
- ・ 社会に開かれた学校

<震災当時の課題>

- ・ 備蓄が足りなかった
- ・ 保護者のことが何も分からない状態での家庭訪問

<学校としての取組>

- ・ 運動会は、例年よりも地域住民が参加できる種目を増やして盛り上がった
- ・ 仮設住宅と合同で火災避難訓練を実施
- ・ 入学までに安心メールの登録をしてもらうようにしている
- ・ 地震後赴任してきた教職員に、パワーポイントなどで地震について伝えている

<その後・現在の課題>

- ・ 備蓄がほとんどない

24

津森小学校

<基本情報>

- 児童数：96名
- 職員数：14名



震災時の時系列

月日	行動
4/14	・ 教育長から体育館開放の指示
4/15	・ メール(安心メール)で休校のお知らせ ・ 安否確認を実施
4/16	・ 津森橋が落ちたら物資が届かないと判断し、エミナスとグランメッセに移動 ・ 校長が職員の安否確認
4/18	・ 8割ほどの職員が出勤 ・ 学校の片付け ・ 子どもたちの声かけ。避難所と家を回った ・ 避難所運営はなし
4/20	・ EARTH来校 ・ 校長会議
4/26	・ 校長会議
5/9	・ 学校再開(水道復旧は前日)。1週間は2時間授業(給食がないため)
6/1	・ 簡易給食を経て弁当給食開始
7/1	・ 本給食再開

25

津森小学校

<周辺地域・学校とのつながり>

- ・ 区長と民生委員が年2回学校に来て懇談会をしている

<震災当時の課題>

- ・ 連絡網や家庭環境調査票の準備をもう少し早くしておけばよかった
- ・ 1年生は安心メールの登録ができていなかった
- ・ 日々変わりゆく道路状況の中、児童の登下校の安全確保が大変だった
- ・ 自宅再建が遅れる家庭では子どもがストレスを抱え、保護者との関係が悪化したというケースもあった
- ・ お礼の手紙を要求する支援もあった
- ・ マスコミが家庭訪問を密着するなど、対応に困った。もう少し気を遣ってほしかった
- ・ 断層を案内してほしいという大学関係者の対応もあった

<学校としての取組>

- ・ 「学校が安全か、子どもが不安に思わないか」などと思われないように、保護者向けに安全面に関する情報発信をした
- ・ 学校の安定が個人の安定につながると考え、日常を取り戻すことを考えた

<その後・現在の課題>

- ・ 防災教育をどこに盛り込むか
- ・ 新に赴任してくる教職員に語り継いでいくことは難しい

26

益城中学校

<基本情報>

- 生徒数：682名
- 職員数：49名



震災時の時系列

月日	行動
4/14	・ 教委から校長会を通じて体育館の開放の指示 ・ 避難者が少数 ・ 停電、断水、校舎の傾き、亀裂を確認 ・ 24時過ぎに、自主的に集まった職員を帰宅させる
4/15	・ 安否確認(避難所を廻り目視で確認) ・ 避難所に連絡先を掲示
4/16	・ 車・徒歩ともに避難者なし
4/17	・ 校長・教頭・主幹で今後について協議
4/18	・ 自主校長会
4/20	・ 臨時校長会で28日までの臨時休校決定 ・ 最終安否確認終了
4/22	・ 被災状況の判定
4/24	・ 電気復旧
4/29	・ 学校再開日(5/9)明示
5/9	・ 学校再開(13日までは2時間授業)
5/16	・ 通常の5時間授業再開

27

益城中学校

<安心メールの活用状況>

- ・ 保護者から卒業生へ、制服寄付の呼びかけに活用

<周辺地域・学校とのつながり>

<震災当時の課題>

- ・ 年度当初で連絡網ができておらず、安否確認に時間がかかった
- ・ 建て替えに際し、プレハブ校舎をどこにするか
- ・ 簡易給食、弁当給食といった変化に伴って給食費の対応が大変だった

<学校としての取組>

- ・ 気持ちが前向きになる取組としてだるまや法づくりなど
- ・ 生徒へのアンケート、担任との面談を実施。深刻な生徒については担任とスクールカウンセラーが教育相談
- ・ 部活動を早めに再開することで子どもたちがコミュニケーションが取られ、元気が出たという意見が見られた

<その後・現在の課題>

- ・ 子どもたちの心理状況の把握(カウンセラーによる見解の違いもある)

28

木山中学校

<基本情報>

- 生徒数：258名
- 職員数：約30名



震災時の時系列

月日	行動
4/14	• データなし
4/15	• 安否確認終了
4/16	• 職員と生徒の安否確認
4/17	• 安否確認は半分ほど不明(連絡とれず) ⇒避難所を廻って確認
~学校再開	• 震災対応
5/9	• 学校再開. 9:00-11:00のみ(益城中央小学校に間借り) • 生徒に心のアンケート実施
再開から二週間	• 部活動再開 • 5月の連休は学校再開準備に専念
5/29	• NPO「語り場」による学習会開始
6/1	• 弁当給食. それ以前は簡易給食だった
8/22	• 2学期よりもとの校舎での学校再開
9月中旬	• 体育大会. 生徒に落ち着きに戻ってきた

29

木山中学校

<周辺地域・学校とのつながり>

- 自治会や民生児童委員とは関わりがある

<震災当時の課題>

- 家族を亡くした生徒(当学中3)のカウンセリングが卒業まで続いた
- 周辺の集落は被害がひどかったため、協力を求められる状態ではなかった
- 電話が復旧した後は電話が鳴り止まず、その対応に追われて他の業務に支障(学校の対応や避難所に対する非難、支援をしたいなど). 支援を断ると「断るとは何事か」とトラブルになる事案も
- 全国から大学の調査関係者が押し寄せて困った

<学校としての取組>

- 眠れない子は授業中に寝ていても配慮したり、部活動再開でイライラの解消を図るなどした
- NPOカタリバの放課後学習会で悩みを打ち明けた生徒の情報を提供してもらうようにした
- 震災について生徒に綴ってもらった

<その後・現在の課題>

- 生徒に綴ってもらったが、内容の整理などができていない(マンパワーが足りない)
- 防災教育をどのように盛り込んでいくか. どこを削ればよいかわからない